



新年増大号

日立港の朝日：日立写真連盟提供

CONTENTS

■年頭所感 2~9	■商工会議所の動き/ 国・県・市からのお知らせ 23
■紙上名刺交換 10~16	■ベストセラー/漢字パズル 流行から見えるもの/言葉の力 24
■新年名刺交換会 17	■協賛広告 25~34
■新春特集：7部会長座談会 18~21	
■会議所インフォメーション 22	



発行所 ●日立商工会議所 〒317-0073 日立市幸町1-21-2 発行人 ●田山忍

購読料 ●200円 (購読料は会費の中に含まれています)

TEL 0294-22-0128 FAX 0294-22-0120 ホームページ <http://www.hitachicci.or.jp/>



茨城の中核都市をめざして



日立商工会議所会頭 秋山 光 伯

平成27年の年頭にあたり一言ご挨拶を申しあげます。

会員事業所の皆様には、平素より日立商工会議所運営全般にわたり、温かいご支援ご協力をいただきありがとうございますことに厚くお礼申し上げます。

さて昨年は、富岡製糸場の世界文化遺産への登録やノーベル物理学賞での3氏同時受賞、スポーツ界における若手選手の世界的な活

躍など、喜ばしく希望に満ちた話題がありました。一方では自然災害が多発し、改めて自然の脅威を感じさせられた一年でした。

政治、経済につきましても、ともに大きく揺れ動き、ことに経済動向は、アベノミクスにより、緩やかな景気回復が続きデフレ脱却も視野に入るなど明るい

兆しが見られましたが、消費税率の引き上げ後は、駆け込み需要の反動から生産活動が弱まり、また、物価上昇が家計を圧迫し消費が低迷しました。加えて景気回復の恩恵が地方や中小企業へ届かないなかで、急激

な円安やエネルギー価格の高騰が進み、中小企業の経営環境は大変厳しいものと

なりました。

当地域経済にあつては、人口減少・高齢化や経済のグローバル化による競争が激化し、受注や雇用に対する先行きの不透明感が拭えずに、生産や消費が低迷するなど厳しい状況が続きました。

こうしたなか、会員事業所におかれましては、自社

の経営資源や世の中の変化を見据えながら、成長分野への進出や海外販路開拓・国外企業との業務提携、また、地域の需要に応じた新商品・新サービスの提供など、経営革新に取り組みいただきたいと思っております。

商工会議所といたしましては、こうした諸情勢を踏まえ、自らの活動理念や使



命をしつかりと認識し、会員はじめ地域企業の経営基盤の強化と地域の活性化に向け、様々な事業に取り組みでまいります。

中小・小規模企業の成長・発展につきましては、従来にもまして、金融や税務など、経営の基礎的な部分への支援を強化してまいります。併せて、昨年6月に「小規模企業振興基本法」(小規模基本法)および「商工会及び商工会議所による小規模事業者の支援に関する法律」(小規模支援法)が成立しております。これにより今後ますます小規模事業者に向けた政策が制度や補助金などとして具体的に予算が拡充されるものと思われまます。もとより事業者の方々の能動的な姿勢が大きな前提となりますが、積極的な活用を促してまいりたいと存じます。

地域の活性化につきましては、国の目玉政策の一つとして「地方創生」が議論されており、人口減少が急

激に進んでいる当地におきましては、大変重い課題と認識しております。地方都市の人口減少は避けがたいとも言われますが、都市の魅力や優劣はけつして人口の多寡によるものではないと考えております。私の個人的な見解ですが、当日立市は温暖で景観にも恵まれ、かつ安全で教育・文化の水準が高く、そして工業という基幹産業を有するなど大変住みやすく、また、働きやすいまちとかねがね感じているところです。そうした魅力や潜在力を引き出し、地域の創生を成し遂げ広域的な地域における中核都市を目指したいと考えております。具体的には商

工会議所の基本組織である部会や委員会の事業を中心に、企業や業界、行政との連携を一層強化し取り組みます。

まず商業・サービス業関係では、昨年、消費税増税後の消費の落ち込みをカバーするため、日立市の支

援を得てプレミアム商品券発行事業を実施し好評をいただきました。当事業につきましては、現在、国による助成が検討されており、今後の事業実施に備え情報収集等に努めてまいります。

中心市街地や駅周辺の活性化につきましては、これまで地区ごとに商店会の方々と懇談会を開催してまいりましたが、若手経営者をまじえ研究を深めてまいります。また、ものづくりにおける地域大学との連携を更にまちづくりをはじめ多方面に広めその声や発想を活性化策に反映させていきたいと考えております。

ものづくり関係では、大企業間による統合会社が設立されるなど、産業を取り巻く環境は、グローバル化の進展と相まって、かつてないほど大きく変化しております。そうしたなか地域中小企業が有する技術やパワーの集積を内外へ広くアピールし、販路開拓などを

積極的に支援するとともに、人材の育成、さらには当市発展の歴史的背景を踏まえて「ものづくりを傳承する地域」を目指した事業にも取り組んでまいります。

観光の振興に関しましては、日立市・日立市観光物産協会との連携を強化し推進してまいります。昨年は、日立おさかなセンターが道の駅として新しくスタートしたのをはじめ、御岩神社がパワースポットとして脚光を浴びましたが、日立市は産業資産や歴史遺産を数多く有しており、そうした資源の一層の活用を図るとともに、さくらまつりや海水浴場などのイベント情報を外向きに発信し誘客に努めます。

このほか、昨年は二年ぶりに会員大会を実施したところですが、会員の皆様へのサービス事業の充実を図るとともに、会員増強に努め組織・財政基盤を強化し、地域のオピニオンリー

ダーとして積極的に発言してまいります。また、中小企業の活力強化に向けた政策や交通インフラの整備促進に関する提言活動にも注力してまいりたいと考えております。

地域経済は、なお厳しい時期が続くものと予想されますが、まちづくりも企業の経営も、変化への対応力如何と考えているところであります。会員事業所の皆様には、こうした大きな変化の時代にあつて、その対応は大変難しく、また、厳しいものであります。一層の経営革新に努めていただき、更なる飛躍を図っていただきたいと思います。

結びといたしまして、会員各位並びに関係者皆様の益々のご繁栄を祈念し、年頭のご挨拶といたします。





日本商工会議所 会頭 三村 明夫

明けましておめでとうございませす。

平成27年の新春を迎え、
謹んでお慶び申しあげませす。

日本商工会議所の会頭に就任して、2回目の新年を迎えました。就任以来、被災地も含めた各地の商工会議所、女性会、青年部、会員各企業等、多くの関係者と意見を交換し、数多くの課題について議論を重ねてきました。

人口減などにより存立の危機に直面している地域や、円安がコストアップに直結して苦しむ中小企業を目的に、当たりになりました。同時に、明確な将来ビジョンを描き、活力を生み出している地域や、イノベーションに果敢に挑戦し成功している中小企業にも接することができ、

強い感銘を受けました。いずれの場面においても、商工会議所が地域の大きな期待にこたえるべく、積極果敢にリーダーシップを発揮しており、その任務の大切さを実感いたしました。

わが国経済は、多くの経済指標が改善を示すなど、全体としては明らかに回復の道をたどっており、20年続いたデフレを脱却しつつあります。私は、アベノミクスの本質は需要創造政策だったと思います。大規模な金融緩和、財政支出、民間活動の活性化により、需要が増加し、需給ギャップは大きく改善されました。

マインド転換局面にある今こそ、資本蓄積、労働力、トータル生産性の3要素を向上させ、中長期的な経済成長を確実なものにしなければなりません。やるべき課題は既に明らかですので、本年は、官民ともに覚悟をもって、その解決に向けて実行・断行するときです。

政府には、安定政権でなければ実行できない痛みを伴う政策を断行し、日本の明るい未来への確かな道筋を示して欲しいと思います。社会保障給付の重点化・効率化は待ったなしであり、成長戦略は論ずる段階は過ぎ、実行あるのみです。一層の規制改革によるイノベーションの喚起、国際的な立地競争力の強化、低廉で安定したエネルギーの確保、人口減少の歯止めと地方創生などの山積する諸課題に

対する適切な政策が、間断なく実行されることを期待します。

我々民間企業は、デフレマインドからの転換をチャンスと捉え、リスクをとりながら事業展開し、事業収益を次の設備投資や賃金増に結び付けなければなりません。経済の好循環を実現する原動力として、これまでの貯蓄主体から本来の投資主体に転換し、積極的に行動することが求められているのです。

日本は、GDPに占める輸出比率が2012年実績で13.4%と、先進国では9.9%の米国に次いで低い国です。GDPの6割を占める個人消費が日本の成長をけん引、つまり日本はこれまで内需主導で成長してきた国なのです。

しかし、今後の人口減少

トレンドを考えると、内需の伸びは、ありとあらゆる努力をしても、せいぜい1〜2%程度と多くを望めず、企業の成長のためにはどうしても外需を積極的に取り入れることが必要です。現状、売上高輸出比率が2%台の中小企業も、14%程度の大企業も、さらなるグローバル化の余地は大であり、新興国の需要等を積極的に捉えていくことが求められます。

海外現地生産という選択肢もありますが、我が国の人的資源や技術力の高さといった強みに加え、円安メリットも活かしながら、国内設備投資により供給能力を高め、輸出競争力を強化することも重要な戦略です。円安は、中小企業にとって恩恵をフルに享受できるものではなく、むしろ原材料

料コスト増につながります。しかしながら、現在の円安はしばらく定着すると覚悟せざるを得ません。何とか円安をメリットにつなげられるように知恵を絞らなくてはなりません。いくつかの中小企業が、生産拠点を海外から日本に戻した、あるいは戻す計画だという話も聞いております。もちろん、そのための環境整備として、TPPの締結、主要国とのEPA締結、法人税の減税なども急務ですので、政府等に積極的に働きかけてまいります。

本報告の第一の目的は危機感の共有です。政府、地方自治体、民間企業、大学等の学術機関、市民など、あらゆる関係者が直面する人口急減、地方消滅の危機感を共有化し、一体的な取り組みを推進すべきことを提言しました。第二は、希望の持てる日本の未来は選択することができる、そのためには、我々は未来ではなく今取り組まなければならない課題に直面していることから、その解決の方向性を提示することでした。

選択する未来委員会で提言した「50年後に1億人程度の安定した人口構造を保持すること」が、政府の「骨太の方針」に盛り込まれました。その実現のためには、少子化対策支出の倍増、生産性の飛躍的向上、男性の働き方改革など、ありとあらゆる対策を総動員する必要があります。各地の商工会議所が取り組んでいる婚活イベントなども直接的な効果の期待できる重要な取り組みですので、是非積極的に推進していただきたいと思っております。

地方創生は大変困難な課題です。何しろ30年に亘る少子化、20年に及ぶデフレが地方の疲弊をもたらしたわけではありません。地方には、観光、農林水産業、地方大学など、まだ十分に活用しきれない資源があります。こうした資源を如何にうまく地域の活性化に結び付けていくか、そしてそれを如何に若者の働く場につなげていくかが創生の鍵です。まさに、商工会議所が重点的に取り組んでいる「地域の再生」と直結する課題であります。

全国約1800の市区町村には1800の処方箋があるはず。地方創生は、その地方が自ら知恵を絞り、解決策を生み出す、すなわち当該地方の主体性、創意と熱意なくして成しえませんが、それゆえに、中立的な立場で多くの関係者をまとめ上げる強みを持つ商工会議所への期待は非常に大きくなっています。地方創生においても、各会議所が強いリーダーシップを発揮していただきたいと思っております。また、震災復興の加速化に向けては、全国514商

工会議所の絆をもとに実施している「遊休機械無償マッチング支援プロジェクト」や「販路回復・拡大」などの活動を精力的に継続しなければなりません。一日も早い本格復興に向けて、現地が必要としている施策を丁寧に取りまとめ、政府などへ提言してまいります。我々商工会議所が、自治体の首長や地域住民などあらゆる関係者とともに危機感を共有化した上で、知恵を絞り、実行する力を発揮すれば、現下の危機は乗り越えられるはずです。514商工会議所のネットワーク力など自らの強みに改めて自信を持ち、中小・規模企業の活力強化や地域再生に積極果敢に邁進すれば、地域から日本の底力を上げる大きな原動力となります。本年は戦後70年という節目の年でもあります。日本の新たな再出発に向けて、大いなる気概と自信と明るさを持ち、「実行あるのみ」を合言葉に、前に向かって動き出しましょう。皆さまの一層のご支援とご協力を心からお願ひ申し上げます。

今年(みんね)は未年



未は紀元前六千年ごろ、家畜化されたといわれています。馬が家畜化されたのが、紀元前三千〜四千年ごろですから、羊と人間の付き合いは、かなり長いことになります。

日本には、羊にまつわる諺(ことわざ)があまり多くありません。すぐに思いつくところでは、「羊の皮を着た狼」「羊頭(ようとう)狗肉(くにく)くらいのものです。曲がりくねった山道を「羊腸」と表現しますが、これはちよつと古臭い感じがしますね。

では、なぜ羊に関する諺が少ないのでしょうか。西暦五九九年、推古天皇の時代に百濟(くだら)から二頭の羊が贈られたと、日本書紀に記されています。しかし、羊は乾燥した風土が好きなもので、日本の気候に合わなかったのでしょうか。あまり繁殖しなかったようです。そのため欧米のように諺が多くないのだろうといわれています。さて、「二年の計は元旦(みこと)にあり」といいます。今年の目標を決め、迷える羊にならないよう、スタートを切りたいものです。



日立市長 吉成 明

輝かしい2015年の新春を皆様とともに

迎えることができましたことを、

心からお喜び申し上げます。

秋山会頭はじめ、日立商

工会議所会員の皆様には日

頃から、市政各般にわたり

温かい御支援、御協力をい

ただいております、厚くお礼申

し上げます。

昨年は、十王町との合併

10周年、並びに、山形県山

辺町との友好都市提携10周

年の記念すべき年であり、

これまで育んできた絆が強

くしつかりとしたものとな

ました。

また、日立市震災復興計

画も一部の大型事業を除き、

計画した事業を概ね完了す

るとともに、奥日立きらら

の里キャンプ場の開設や日

立おさかなセンターが道の

駅に登録されるなど、活力

ある日立の実現に向けた歩

みも着実に進めることがで

きました。

現在、急速に進む少子高
齢化や人口減少など、私た
ちを取り巻く環境は大きく
変化しており、国を挙げて
地方創生に力点をおいた政
策を進めようとしておりま
す。

そのような中、地方の発
展、まちの活力を維持して
いくためには、地域の雇用
や活力の源である企業が、
思う存分に活動できる環境
の整備が不可欠であると考え
ております。

本市としましても、本年
は、将来に向けての新たな
展開を図るべく、産業活性
化や市民生活の利便性向上
に欠かせない幹線道路や港
湾、公共交通などのインフ

ラ整備を進め、都市機能の
強化を図り、更なる産業の
活性化や交流人口の拡大に
向けた取組を推進するとと
もに、医療体制の充実や防
災力の強化など各種施策に
取り組んでまいります。

また、秋山会頭はじめ日
立商工会議所の皆様とともに
に取り組んでまいりました
茨城県立日立産業技術専門
学院への機械加工科の新設
につきましても、本年4月
から開設されることとなり、

本市の産業振興に寄与する
ものと期待しているところ
であります。
本市はこれまで、ものづ
くりのまちとして、様々な
技術や精神が連綿と受け継

がれ、発展を続けてまいり
ました。今後も、これまで
先人たちが培ってきた知恵
や技術、人材などの日立力
という資源を生かしながら
「安全安心なまちづくり」
と「次世代への道づくり」
を進めてまいりたいと考え

ておりますので、日立商工
会議所会員の皆様におかれ
ましては、引き続き、御支援、
御協力を賜りますようお願い
申し上げます。

結びに、日立商工会議所
のますますの御発展と、本
年が会員の皆様方の御家族
共々、実り多い明るい一年
でありますことを心からお
祈り申し上げます。



地域に活力を

日立市十王商工会 会長 和田 芳信

平成二十七年の新春を迎え、
謹んでお喜び申し上げます。

平成二十七年の新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。商工会議所会員事業所の皆様におかれましても、健やかに新春をお迎えのことと思います。

平素より日立商工会議所の皆様には、商工会運営全般にあたり、ご支援ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。新春にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

我が国の経済は、アベノミクス効果により昨年は最

高の利益を出した企業も見られましたが、それも一部の大中企業に限られております。円安や消費税率の引き上げが大きく響き、消費の冷え込みが進む中で、小規模事業者にはフォークラスを

当てること、個人経営の事業者数は、ここ数年で大幅に減少しており、経営状況の厳しさが如実に表れております。

こうした現状に歯止めをかけるため、従来の中規模

企業に偏りがちな政策を転換し、改めて小規模企業の振興を図るため、昨年六月に「小規模企業振興基本法」が成立となりました。これはまさに、日本経済の下支えをし、地域コミュニティの維持、地域経済や雇用を担うためには、小規模企業がなくてはならない存在であると認められたといってもいいのではないのでしょうか。会員事業者の九十パーセントが小規模企業である商工会にとっても、この法律の制定はかねてからの悲願でありました。今までは国の補助金は敷居が高く、複雑でなかなか手が出ないといった事業者でも、一歩

を踏み出す大きなきっかけとなることと思います。

当会でも、従来からのキヤッチフレーズである「行きます 聞きます 提案します」をもとに、この法律

内容の周知を徹底し、会員の満足度を上げていけるように邁進する所存であります。

最後になりましたが、皆様にとって本年が良い年になりますようご祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

また、昨年の大きな事業を振り返りますと、消費税増税に伴う駆け込み需要後の消費停滞の打開策の一つとして、『日立市プレミアム商品券』を発行し、多くの方にご利用をいただきました。完売には至らず、いくつかの課題は残りましたが、今後はそういった課題



感所頭年頭副会

副会頭 岩田 秀邦



新年あけましておめでと
うございます。

会員の皆様におかれましては健やかな新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年の衆議院選挙の結果によって、引き続き継続される「アベノミクス」については、更に強気に打ち出されて、一日も早く我々地方の小規模企業に確かな効果が表れるように期待するものであります。やはり、地方の景気が良くならなければ若者の雇用も生まれず人口増加にも繋がって行きません。

私も商工会議所は、地域を代表する経済団体として、その時々課題に自ら対応して中小・小規模企業の元気を取り戻し、地域全

体の活力をより確実なものとしていかなければならないと思っております。そのためにも皆様と共にアイデアを結集しながら前に進めて行きたいと存じますので、一層のご支援とご協力を賜りますよう心からお願い申し上げます。年頭のご挨拶といたします。

副会頭 友部 英一



あけましておめでと
うございます。会

員の皆様には謹んでお喜びを申しあげます。

平素からは、商工会議所事業運営につきまして、絶大なご理解とご協力をいただき厚く御礼申しあげます。

さて昨年は、私たち地域産業界の主力産業の一つである火力発電システム事業の統合会社(三菱日立パ

ワーシシステムズ株式会社)が設立され、日立地区に新たな活性化への機運が高まりはじめました。これは、消費動向や雇用などにも波及するものとして、街の期待が寄せられていると同時に、地域のものづくり企業には更なる対応力強化のための研鑽が要求される環境となりました。業界によつ

ては、取引先の海外展開が顕著な進展を見せていることから、水戸市に6月に新設されたJETRO茨城情報センターの活用を促す活動を行いました。そして、ものづくりは「人づくり」と言うように、高校や大学ではインターンシップが拡大充実の傾向となり、そのニーズは製造業の他、多岐に亘っていることから、会員企業業種間の連携協力が必要かと考えております。マ

クロク的にはアベノミクス経済の恩恵が今一つ実感のな

い地方都市としての現状の中、生き延びる道筋をこの環境変化に見出す活動そのものが、まさに商工会議所の原点ではないかと認識を新たにしております。

今年の干支は「未(ひつじ)羊」です。「未完成」「未来」にも使われているように、未来への期待を込めて、さらに「強い中小企業」を目指すためにも、会員間の強い連携意識をもった活動を念頭に務めてまいりたいと考えております。会員の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

結びに、会員の皆様には、企業個々のパワーアップに向けた自社の強み発掘とその伸展を目指し、地域動静を見ながらの経営に心がけていただくとともに、新しい年の更なる飛躍をご期待申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

副会頭 森 嶋 鎮 一 郎



新年明けましておめでと
うございます。

会員の皆様におかれましては、健やかな新年をお迎えのことと心よりお喜び申し上げます。

さて、我が国の地方を取り巻く環境は、一層厳しさの度合いを強め、地域間の格差が際立ちつつあります。昨年は、『消滅可能性都市』なる言葉をも生まれ、人口減少に対する漠とした危機感がハッキリとその輪郭を現した年でもありました。

一方、街の顔である商店街の元気がなくなつて、ずいぶん分久しくなります。後継者問題、消費者の購買行動の多様化など、課題は山積しておりますが、もう一度、コミュニティの核となる商店街を復活させるため、商店会関係者や地域住民、大

学などの連携作りからスタートすることが必要ではないかと考えております。

この一年が実り多い年でありませう。ご祈念申し上げます。ご挨拶といたします。本年もよろしくお願い申し上げます。

副会頭 百目鬼 孝 一



新年あけましておめでと
うございます。

会員事業所の皆様には心よりお慶び申し上げます。また、日頃よりご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

「会社の寿命は30年」といわれるなか、変化の激しい現在では、今、成功している事業が10年後も安泰であるという保証はありません。旧来のビジネスモデルに固執し続けていると急速に衰退していく可能性すらある時代です。さらなる持続

的な成長を続けるためには、時代背景に合わせてビジネスモデルをどのように再構築していくかが不可欠になってまいります。

既に皆様には御承知のように、どのような事業においても「強み」「弱み」を分析し、その強みを徹底的に生かす方向にビジネスモデルを組み替えることがもつとも基本的なことであり、その基軸になるのは、「顧客価値を圧倒的に高めるにはどうするか」を深く検討することが出発点となるのではないでしょう。

これら再構築に対しては、トップにしかできない意思決定であり、時代は常に要求しているのではないかと、心新たにしているところがあります。

会員の皆様にとりましては、より良き年でありませう。新年の御挨拶とさせていただきます。

歳 時 記



たこ揚げ

男の子はたこ揚げ、女の子は羽根つき…お正月の楽しい遊びですね。

ところが、電線や車のために、昔のように道路で遊ぶことができなくなりました。また、原っぱも少なくなったため、近頃のお正月は、たこ揚げや羽根つきをする子どもが少なくなりました。たこも羽子板も、最近は装飾品として飾られることが多いようです。

お正月にたこ揚げをする習慣は、江戸時代から始まったといわれています。特にお正月の敷入り(十六日前後)に、たこ揚げをする習慣があったようです。

たこ揚げの季節は、各地によつてさまざまで、二月や四月のところによつては端午の節句の行事とされているところもあります。有名な浜松のたこ揚げは、五月の連休です。たこという名も、いかのほり、

たかなど、地域によっていろいろあります。

日本のたこの種類は、龍などの勇ましい文字を書いた字だこ、武者絵や日の出などを描いた絵だこ、やっこさんの形のやっこだこなど、いろいろです。最近では、日本でも洋風のカイトに人気があります。

お正月は、ついテレビやゲームで遊んでしまい、運動不足になりがちです。昔のように、風の中をたこ糸を持って、思い切り走り回るのもいいですね。



未

紙上名刺交換

森嶋鎮一郎



副会頭

森島酒造(株) 代表取締役
川尻町1-17-7 Tel.43-5334

食文化を通して社会への貢献

友部英一



副会頭

日立鉄工協 代表理事
桜川町2-25-3 Tel.33-0208

地域も企業も盛り上がる様頑張る。

岩田秀邦



副会頭

(有)運平堂本店 代表取締役会長
大みか町1-6-7 Tel.52-3257

アイデアのない企業に進歩なし。
アイデアは限りなし。

秋山光伯



会頭

(株)秋山工務店 代表取締役社長
大沼町1-7-1 Tel.34-2233

チェンジをチャンスに

佐藤友亮



監事

(有)東港堂 代表取締役
幸町2-8-15 Tel.24-1510

人との絆を大切にしながら健康に留意して頑張りたい。

泉有



監事

泉有税理士事務所 所長
久慈町6-14-6 Tel.54-0383

一意専心の気持ちを忘れず、日々仕事に励んでいきます。

小野武雄



監事

(有)天力 代表取締役
千石町2-10-7 Tel.36-3375

今年のモットーは「和と健康」を大事に頑張ります。

百目鬼孝一



副会頭

助川電気工業(株) 代表取締役
滑川本町3-19-5 Tel.23-6411

変化への挑戦

川崎優



理事

日立商工会議所 理事
幸町1-21-2 Tel.22-0128

まちの活性化と会員事業所の経営力強化に全力で取り組んでまいります。

田山忍

専務理事

喪中欠礼

迎春



 <p>森 滋 副部長 常議員 尙森山商店 代表取締役 神峰町1-8-11 TEL21-5385 千変万化</p>	 <p>佐藤 洋一郎 副部長 常議員 株みどり園 代表取締役 宮田町2-6-10 TEL22-2390 1～2年病気やケガに泣かされました。今年は何特別健康に留意。</p>	 <p>梶 格 康 副部長 常議員 プレビ株 創業者名誉顧問 弁天町3-1-16 TEL22-1501</p>	<p>商業部会</p> 
 <p>大森 孝之 議員 株花金 代表取締役 多賀町1-15-3 TEL33-0882 お花を通して全てのお客様に喜びと感動をお伝えしたい。</p>	 <p>赤津 康晴 議員 株あかつ水産 代表取締役 水木町2-8-40 TEL34-2628 より一層地域に密着し、震災後の魚離れした消費者を取り戻すこと「復興」</p>	 <p>武田 太志 常議員 株菓匠たけだ 代表取締役 田尻町5-14-3 TEL43-3524 齡50年となり、今年を更なる飛躍の年としたい。</p>	 <p>渡邊 朝光 副部長 常議員 つるや米穀店 代表 久慈町3-20-9 TEL52-3256</p>
 <p>茅根 弘 匡 議員 株中之蔵商事 代表取締役 田尻町2-22-8 TEL42-4151 「知行合一」</p>	 <p>砂川 宏 議員 株砂川産業 代表取締役会長 千石町2-5-7 TEL33-3411</p>	 <p>須田 真 紳 議員 株須田酒店 代表取締役 鮎川町4-3-15 TEL37-4111</p>	 <p>鈴木 俊 洋 議員 株ワインショップズズキ 代表 弁天町1-4-9 TEL21-3311</p>
 <p>長谷川 勝 一 議員 ドーナツの店 はせ川 代表 幸町1-15-3 TEL24-4424 地域愛</p>	 <p>成田 壯 太郎 議員 株成田メガネ店 代表取締役社長 助川町1-7-13 TEL21-4717 正確調整で快適な視生活をお届けする。</p>	 <p>長山 洋 樹 議員 株三和商事 代表取締役 千石町2-17-18 TEL35-1163 静かに 健やかに 遠くまで</p>	 <p>百目鬼 孝 夫 議員 株助川カメラ 代表取締役 弁天町1-10-16 TEL22-6331</p>
	<p>凡 例 氏 名 事業所名 所在地 役職名 電話番号 商工会議所役職名 今年の抱負</p>	 <p>渡邊 けい子 議員 株日立礦油 代表取締役 会瀬町1-15-40 TEL21-3111 小を積んで大となす。まじめにそして真剣に。</p>	 <p>前島 康 議員 株カメプ呉服店 専務取締役 千石町1-4-26 TEL33-0873 「本業専一」</p>

 <p>小野 久雅 副部長 常議員 株日立工業所 代表取締役 東滑川町2-10-6 TEL.22-2282</p>	 <p>小島 憲治 副部長 常議員 株日立ゲージ工業所 代表取締役 田尻町1-29-5 TEL.42-3196</p> <p>明朗快活に生きること！</p>	 <p>宮本 洋治 部長 常議員 久慈鉄工協 代表理事 石名坂町2-43-15 TEL.53-1800</p> <p>有言実行</p>	<p style="text-align: center;">工業部会</p> 
 <p>清水 朋彦 副部長 議員 丸善電機工業株 代表取締役 諏訪町1-9-12 TEL.33-0517</p> <p>ポジティブ思考でイメージ</p>	 <p>水出 浩司 副部長 常議員 株日立製作所電力システム社日立事業所 総務部庶務課長 幸町3-1-1 TEL.55-0011</p> <p>健康第一</p>	 <p>武士 洋一 副部長 常議員 株旭製作所 代表取締役 東滑川町5-5-40 TEL.43-3451</p>	 <p>小峰 保信 副部長 常議員 日立製作所工業協 代表理事 幸町1-19-1 TEL.22-2131</p>
 <p>鈴木 修二 常議員 日立金属株高砂工場 総務部課長 砂沢町880 TEL.42-5006</p> <p>地域活性の為、貢献できるよう 微力ながら頑張ります。</p>	 <p>小野 武 常議員 株小野金属工業所 代表取締役 東金沢町2-7-20 TEL.33-3364</p> <p>一途に</p>	 <p>磯崎 公郎 常議員 茨城電機工業株 代表取締役 東大沼町1-14-33 TEL.36-1818</p>	 <p>吉野 邦彦 副部長 議員 吉野電業株 代表取締役 滑川町1-5-13 TEL.22-0825</p> <p>「ありがとうございます」の感謝 を学ぶ。</p>
 <p>内田 武士 議員 株コーヨー 代表取締役社長 東金沢町1-9-7 TEL.36-1811</p> <p>変化や課題に対し、めげずに頑 張る。</p>	 <p>井上 敬一 議員 マルイアドバンス株 代表取締役 森山町5-8-18 TEL.52-2074</p>	 <p>田代 俊太郎 常議員 JX日鉱日石金属株日立事業所 総務課長 白銀町1-1-2 TEL.23-7130</p> <p>日立市の発展に些かなりとも貢 献できるよう、頑張ります。</p>	 <p>関口 寿雄 常議員 日立セメント株 取締役常務執行役員工場長 平和町2-1-1 TEL.23-7400</p> <p>急激な変化に対応</p>
 <p>木曾 裕次 議員 株ハイベック 代表取締役 滑川町1-13-5 TEL.22-0576</p> <p>チャレンジ</p>	 <p>川又 幸夫 議員 常陽電機工業株 代表取締役会長 諏訪町1-11-20 TEL.34-5234</p>	 <p>大久保 吉生 議員 日立鉄工会 会長 国分町3-2-23 TEL.33-0611</p> <p>縁:無数の人的、物的な縁に感謝</p>	 <p>打矢 二郎 議員 東京ガス株日立支社 支社長 幸町1-22-2 TEL.22-4131</p> <p>明るく楽しく前向きに日立市の 活性化に貢献したいです</p>